

令和元年度実施事業の成果



写真1 清海堀発掘調査で発見された本丸腰巻石垣（北東から）

I. はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成 28 年度改訂版-』（H29.3）の策定から 3 年目の令和元年度は、岡崎城跡内で 2 箇所の発掘調査と石垣測量調査、菅生川端石垣整備工事等を行いました。今回は令和元年度に実施した事業について紹介します。

No	地点	期間	内容
①	総堀跡 (籠田総門)	R1.8.17 ～9.28	トレンチ調査1箇所 調査面積 16.0 m ²
②	清海堀跡	R2.1.14 ～3.19	トレンチ調査6箇所 調査面積 176.0 m ²

表1 発掘調査履歴



図1 岡崎城郭図と調査・整備地点

Ⅱ. 発掘調査事業

1. 岡崎城総堀跡(籠田総門付近)

岡崎城は「総堀」により城下町まで囲い込んだ総構え構造の城郭でした。総堀の総延長は約 4.7kmを測り、総堀に囲まれた総構えの範囲は約 86ha にも及ぶ大城郭でした。総堀は戦災復興や市街地化により現在はその痕跡をほとんど留めません。今回、籠田総門の想定地において遺構の残存状況を確認するために発掘調査を行いました。

調査成果

籠田総門の痕跡(礎石等)は戦災復興までの土地改変の中で失われていました。一方、絵図との重ね合わせによる総堀想定域において地山を開削した掘り込みが確認されました。掘り込みの中央部には昭和初期に設置された下水用の石組み水路が構築されていることから、近代まで総堀の痕跡が残っていて、それを利用する形で下水施設が構築されたものと想定されます。



写真2 総堀の落ち込み(手前)と近代の石組み水路(奥)

2. 岡崎城跡清海堀

清海堀は岡崎城の本丸と持仏堂曲輪を隔てる大規模な空堀で、名称は岡崎城の最初の築城者・西郷頼嗣の法名「清海入道」に因みます。二の丸から本丸へと至る経路の嚴重な縄張りは戦国時代後期の徳川家康が築いたものともいわれています(図2)。一方、清海堀北面の石垣は天正18年(1590)に家康の関東移封後に城主となった田中吉政により初めて築かれたものと考えられます。

調査成果

発掘調査により、清海堀の堀底は地表面から約 1.5mが埋没しており、堀の形状は堀底が平らな「箱堀」であることがわかりました。堀底の直上に江戸時代後期の瓦が堆積していることから、江戸時代後期に堀の浚渫(掘り直し)が行われたものと考えられます。

清海堀石垣の基底部(根石)が確認されたことで、石垣の西側は田中吉政による構築当初の石垣であることがわかりました(写真4)。一方で東側は江戸時代中期以降に積み直しが行われていることがわかりました(写真3)。

また、清海堀北面の石垣とは堀底を挟んだ対岸(本丸側)の斜面裾部において、江戸時代の絵図に描かれていない石垣が発見されました。(写真1)。

石垣上部の斜面表層の土は人工的に突き固められて構築されていることから、石垣は斜面裾部の土砂の流出を防ぐための腰巻石垣であることがわかりました。雨水等の原因で崩落した斜面を修復した痕跡と考えられます。構築年代は出土遺物や層位的な見解からは江戸時代後期のものと推測されます。また江戸時代後期においても自然石のみを使用した野面積みで積む高い石垣構築技術を有していたことも明らかとなりました。

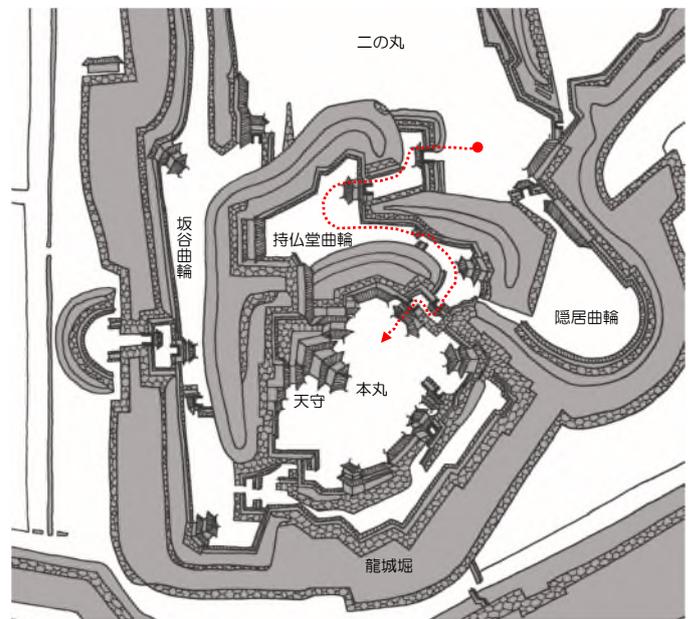


図2 江戸時代の絵図をトレースした図

□曲輪 □堀・建物等 ...二の丸から本丸への経路



写真3 清海堀東端部の状況(左:清海堀石垣/右:本丸大手門下石垣)



写真4 清海堀西端部の状況

(左：本丸腰巻石垣/中央：廊下橋石垣/右：清海堀石垣)

Ⅲ. 石垣保存修理事業

『岡崎城跡石垣保存修理基本計画』(H30.3)に基づき、以下の事業を実施しました。

- ・樹木伐採による石垣の保存
- ・石垣測量による基礎資料の作成
- ・変位計測による石垣の変状の把握



写真5 樹木伐採前の清海堀

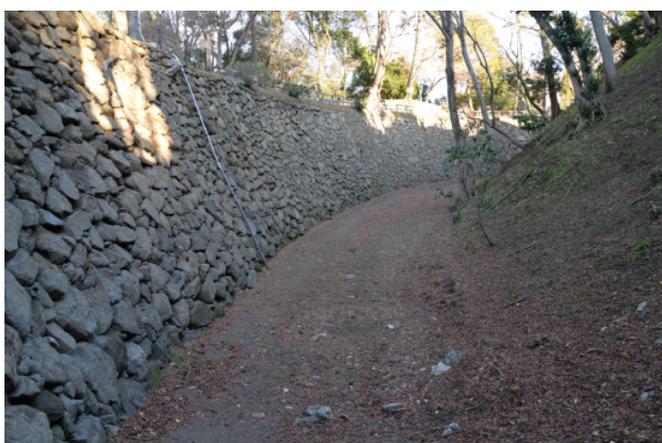


写真6 樹木伐採後の清海堀

1. 樹木伐採及び石垣測量

清海堀石垣について、石垣の保存に影響を及ぼすおそれのある樹木の伐採を行い、樹木伐採の後に石垣測量を行いました。測量は写真測量による石垣立面図の作成を行いました。

2. 石垣変位計測

岡崎城跡の石垣全216面に対して、危険度の高いA判定の石垣8面について変位計測を年4回行いました。いずれの石垣においても変状は認められませんでした。今後も継続的に計測を行い変状の把握に努めます。

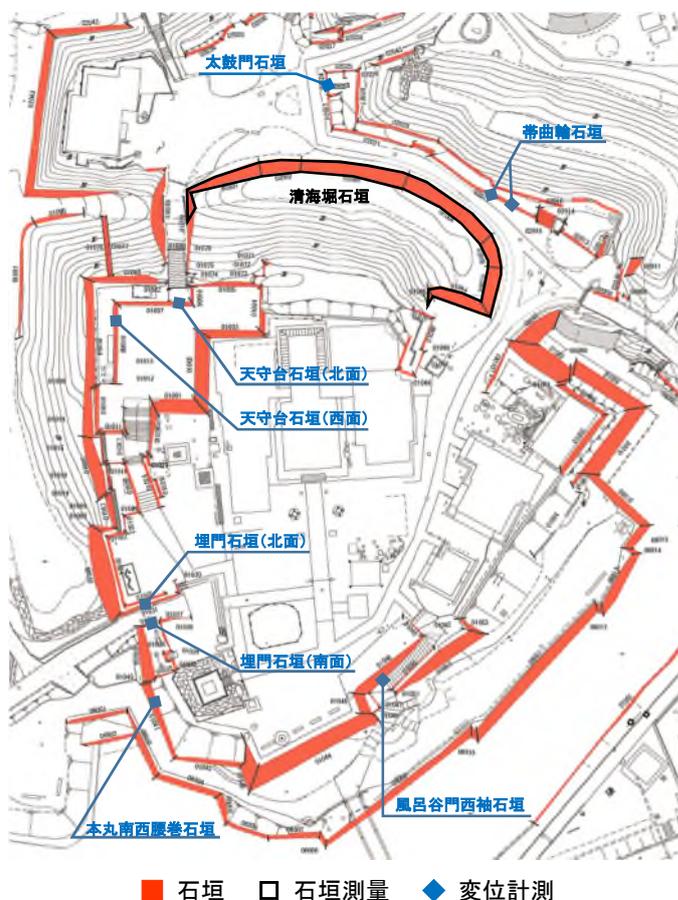


図3 石垣関係調査位置図

3. 石垣点検

今年度より新たに開始したもので、変位計測とは異なり、石垣石材の個別の割れや緩みの進行具合を把握するためにクラックゲージ(15箇所)とガラス棒(20箇所)を設置しました。今後、定期的(年4回)に機器の点検を行い、変状の把握に努めます。

クラックゲージは石材の目地の開きを計測することができ、ガラス棒は隣り合う石材間のズレや石材の割れの広がり把握することができます。いずれも変位計測と合わせて石垣の変状を把握するためのものです。



写真7 クラックゲージ



写真9 整備後の園路と菅生川端石垣



写真8 ガラス棒



写真10 新たに発見された菅生川端石垣

IV 整備・活用事業

1. 菅生川端石垣整備工事

菅生川端石垣の整備として見学用の園路を整備しました。また石垣中央部に設置された階段及び石積みの撤去、樹木伐採をしたところ、石垣が良好に残存していたことから、石垣を見ることができるよう整備を行いました。

2. 金箔瓦復元品製作

平成30年度の天守台石垣発掘調査で出土した三つ葉葵文の金箔瓦の復元品を製作しました。



写真11 出土した金箔瓦と復元品



【凡例】 ■ : 石垣 (破線は埋没石垣) ■ : 新たに確認された石垣 ■ : 整備を行った園路

図4 菅生川端石垣整備位置図

岡崎城だより No.3

発行年月日 令和2年3月31日
 編集・発行 〒444-0861 岡崎市十王町2-9
 岡崎市教育委員会社会教育課
 TEL : 0564-23-7270